



「玉をおいて算数しましょう。」

- ① お砂場で、男の子が4人遊んでいました。
そこへ女の子が3人遊びにきました。
お砂場で遊んでいる子どもは何人になりましたか。
- []
- ② 電線に、スズメが6羽、とまっていました。
そこへまた、スズメが2羽とまりにきました。
電線にとまっているスズメは何羽になりましたか
- []
- ③ 水槽にメダカが5匹います。
そこへまた、4匹入れました。
水槽のメダカは何匹になりましたか。
- []



玉で考えよう
盤置き算数;加算

4496

©Adeamland

- 1)玉を文題中のモノの代わりとして使い、実演で行う。
2)問題文を読み伝え、それに従って玉を置いて、口頭で
答えさせる。
3)四角の中の円を使うことに慣れさせる。
4)検査ではないので、分かって正答できるまで試行する。

1

- a)数表象としての玉を具体的に操作した算数の口頭試問。
b)ここでは、玉が数表象(Rep)として別のモノを代表する役
割を担う。
c)ベン図の決まりごととして、部分集合は円が、全体集は
四角が枠形となる。

特定用具:不要